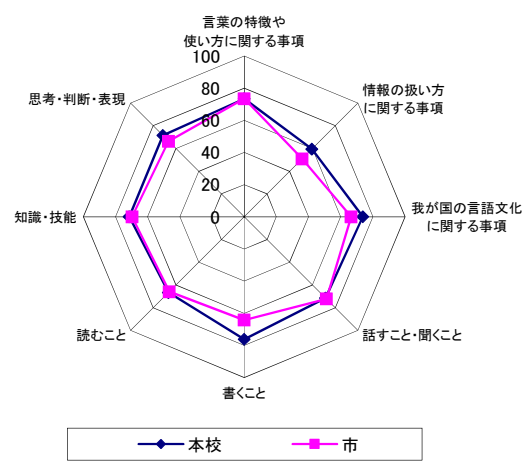


宇都宮市立西原小学校 第6 学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	59.5	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	73.8	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	71.4	72.3	73.7
	書くこと	76.2	64.3	66.6
	読むこと	66.7	65.8	64.9
観点別	知識・技能	71.4	69.8	70.8
	思考・判断・表現	71.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

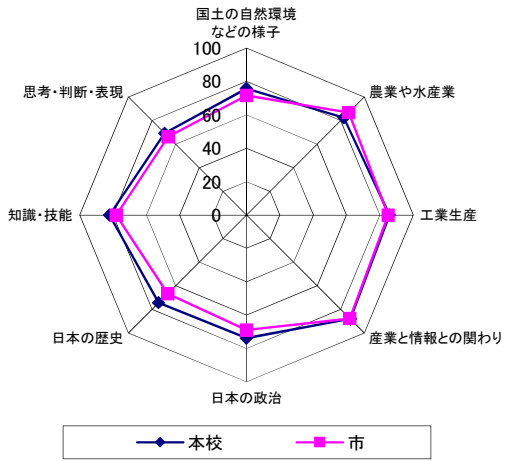
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	正答率は、市と同程度であった。 ○6年生の配当漢字を読む問題は、市の平均をほぼ上回っている。 ●5年生の配当漢字を書く問題は、市の平均正答率を下回っている。 ●敬語を正しく理解し、使う問題は、正答率が19%と低く、市の平均を3. 2ポイント下回った。	・全授業を通し、既習漢字を使って文作りなど、漢字に触れ、漢字を使う機会を意図的に増やしていく。 ・国語で習った敬語を日常生活で使えるように、場面場面で指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	正答率は、市と比べると8. 5ポイント高かった。 ○説明文から読み取る問題では、市の平均より1. 7ポイント上回っている。 ○ポスターから情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書く問題については、市の平均より15. 4ポイント上回っている。	・説明文や物語文を読むときには、文の中から正しい情報を得てまとめたり、大切な言葉を用いて要約したりする機会をできるようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	正答率は、市と比べると7. 3ポイント高かった。 ○語句の由来に関して、和語、漢語、外来語の分類ができるかどうかを確かめる設問において、市の平均正答率を上回っている。	・言語に関する授業は、読み物教材を扱う授業に比べてかなり少ない。その中でも、言語に関する必要な知識が確実に得られるよう、要点を押さえた分かりやすい授業を行うようにする。 ・和語、漢語、外来語がどのようなものかを知るだけでなく、どのような点に着目すれば分類できるのかについて指導していく。(読みの音訓はどうか、片仮名かどうか)
話すこと・聞くこと	正答率は、市と比べてほぼ同等である。 ●話すこと・聞くことの領域における問題全てにおいて、市の正答率をやや下回った。	・国語の授業に限らず、日常の話を聞く場面において、集中して話を聞き、相手が何について話しているのか、話題の中心を念頭に置いて聞くことを重視していく。 ・話合いの場面では、相手が何について話しているのかを捉え、意図に応じた質問を工夫したり、自分と相手の意見の違いを考えながら聞いたりする学習を継続する。
書くこと	正答率は、市と比べて10ポイント以上高かった。 ○書くことの領域における問題全てにおいて、市の正答率を上回った。特に、「自分の立場とその理由を書く」記述問題では、97. 6%の正答率であった。	・日頃の授業から、観点を設けた作文を実施し、文章を書く場面を意図的につくる。 ・話す場面でも、自分の考えやその理由を明確にして話すことができるように指導を継続していく。
読むこと	正答率は、市の値と比べるとほぼ同等である。 ○物語を読み、意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題では、市より4ポイント程上回った。また、説明文の要旨を把握する問題では、市より7ポイント以上上回った。 ●説明文を読み、叙述を基に文章の内容を捉えている問題では、市の平均正答率を下回った。	・読む活動を通して、場面ごとの登場人物の心情と様子を捉え、描写を基に物語の人物像を捉えられるようにする。 ・説明文を読んで内容を正確に捉えるため、文章の段落ごとに内容の把握を丁寧にいき、筆者の考えやその他の情報を整理したり、段落ごとに要点をまとめたりする。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.7	71.6	69.6
	農業や水産業	82.5	86.7	83.7
	工業生産	85.7	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	88.1	87.7	77.4
	日本の政治	73.8	68.9	71.7
	日本の歴史	74.4	66.7	66.3
観点別	知識・技能	82.1	78.0	76.7
	思考・判断・表現	69.3	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

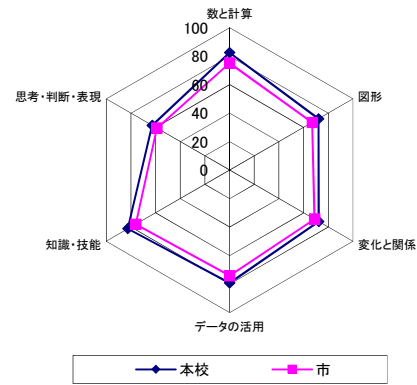
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	正答率は市の正答率より高い。 ○日本の周辺の海洋名を答える問題では、正答率が100%である。 ○日本の主な地形(湖)の名称を答える問題では、市の平均正答率を7ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後もAIDリルやクイズなどを使って楽しみながら学べるよう工夫することで、主な海洋名に加え、主な大陸名や国々などについても、位置と名称を関連付けながら覚えられるようにする。 ・日本の主な地形について、日本の気候とも関連させながら、山地山脈や河川の位置と名称も覚えられるようにする。
農業や水産業	正答率は、市の正答率を下回った。 ○水産物の流通の工夫について資料をもとに判断する問題では、市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。 ●米の生産の工程についての問題では、市の平均正答率を10.4ポイント下回っている。	・グラフや表などの資料から必要な情報を得て、それをもとに判断する問題を数多く解くことで、資料を読み取る力を付ける。 ・単元学習だけでなく、給食指導や家庭科の学習内容と絡めて、米などの農産物の生産工程や水産物が消費者に届くまでに関心をもたせ、食料自給問題への理解を深める。
工業生産	正答率は、市の正答率とほぼ同等である。 ○日本の工業の特色について、資料をもとに表現する問題では、市の平均正答率を10ポイント上回っている。 ●自動車の製造工程について考える問題では、市の平均正答率を6ポイント下回っている。	・既習事項と日本の工業生産を特徴づける資料を関連付けながら確認することで、日本の輸出・輸入の特色への理解を深める。 ・資料を的確に読み取る力を付けるために、複数の資料を比較したり関連付けたりして考えたことについて、まとめたり、話し合ったりする機会を設ける。また、視覚的教材を積極的に活用する。
産業と情報との関わり	正答率は、市の平均正答率とほぼ同等である。 ○さまざまなメディアの特徴について問う問題では、市の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均正答率をやや下回っている。	・さまざまなメディアの特徴については、今後も、社会科の授業だけでなく他教科でも指導し、それぞれのメリットやデメリットを理解できるようにする。 ・情報モラルについて、社会科と道徳や学級活動などでも繰り返し考えることで、学校全体でDC教育を進めていく。
日本の政治	どの設問においても、市の正答率を上回っている。 ○国民の義務について問う設問では、市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。 ●内閣の働きについて問う問題では、市の平均正答率を若干上回っているが、正答率が42.9%と低い。	・引き続き、基本的な知識については、ドリルやプリント等でくり返し確認する。 ・国会、内閣、裁判所の働きについて、図や言葉でまとめる活動を重点的に行う。
日本の歴史	全体的にみると、市の平均正答率を上回っている。 ○源平の戦いの理解をもとに、資料を判断する問題の平均正答率は、市の平均正答率を11ポイント上回っている。 ●源氏物語についての問題では、市の平均正答率を3.4ポイント下回っている。	・資料を読み取る力を身に付けるとともに、歴史的な出来事が起きた背景やその後の影響について考えるような問題解決型の授業を展開する。 ・資料は教科書や資料集だけでなく、ICT機器や図書など様々なものを提示して、児童が興味をもってそれらを比較したり関連づけたりして、理解を深められるように指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.4	75.1	75.8
	図形	72.1	66.8	68.3
	変化と関係	72.2	68.8	65.0
	データの活用	79.3	74.1	63.6
観点別	知識・技能	82.5	76.1	75.8
	思考・判断・表現	62.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

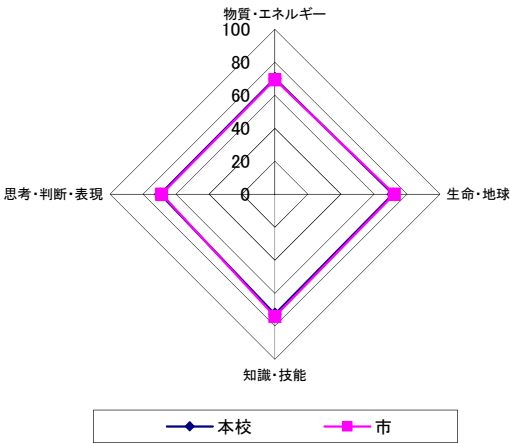
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	正答率は市を7.3ポイント上回った。 ○どの設問も市の正答率を上回った。特に分数×分数(約分あり)の計算問題の正答率が92.9%で理解度が高かった。 ●小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算問題の正答率が71.4%とやや低かった。積の小数点を打つ位置の理解度が低いと考えられる。	・整数や分数、小数の基礎計算が正しくできるようにするために、反復練習の機会を増やすように、授業だけでなく朝の学習や家庭学習においても計画的に取り組めるよう指導していく。 ・小数の計算では、小数点を付け忘れたり、小数点を打つ位置を間違えたりする児童が見られるので、計算の手順を繰り返し指導していく。
図形	正答率は市を5.3ポイント上回った。 ○直径が与えられた円の面積を求める設問の正答率が97.6%と高く、市の平均を13ポイント上回った。 ●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める設問の正答率が市の平均を下回った。また、線対称な図形について理解し、示された方法で図形を作ることができるかどうかを説明する記述式の設問の正答率が低かった。	・図形を作図する学習では、実際に定規や分度器、コンパスを使って作図する回数を増やし、身につくように指導していく。 ・平行四辺形や三角形は高さが図形の外にある場合についての理解が難しい。面積を出すための様々な公式を確実に理解して使うことができるよう、たくさんの応用的な問題を解くようにする。また、底辺をどの辺にするかによって高さが決まるので、それを確実に理解させるように指導する。
変化と関係	正答率は市を3.4ポイント上回った。 ○表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が混んでいるかを選択する設問では、正答率が市よりも5.2ポイント上回った。基準量と比較量から割合を求める設問の正答率も市の正答率を5.7ポイント上回った。 ●速さと道のりから時間を求める設問の正答率が、市の正答率よりやや低かった。割合についての基本的な考え方への理解が不足していると考えられる。	・割合の学習では、基準量、比較量、割合の何を求めている問題なのか、基準量、比較量、割合がいくつなのかを確認しながら問題を解くよう、繰り返し指導していく。 ・単位量当たりの大きさについては、面積あたりの人数なのか人数あたりの面積なのか等、もとにする量をそろえることで初めて比べられることを理解させる。文章問題の場面や図を提示して、式や商の意味をその都度確認できるようにしたりして丁寧に指導していくことを継続する。 ・速さや道のり、時間との関係を理解し、学習の中だけでなく日常の様々な場面で繰り返し活用することで、学力の定着を図る。
データの活用	正答率は市を5.2ポイント上回った。 ○平均・データの見方に関する設問のうち、1問を除きどの設問も市の正答率を上回った。特に、ドットプロットを度数分布表に表す設問の正答率が97.6%と高かった。データの見方に関しての理解度は高い。 ●中央値を求める設問の正答率が71.4%で、市の正答率を下回った。データの数が奇数の場合や偶数の場合の中央値の求め方が理解が不足している。また、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める記述式の設問の正答率が低かった。	・データの見方について学習する際に、平均値や最頻値、中央値などの代表値について何度も確認しながら定着を図る。 ・社会科など他教科の授業でもデータの分析を積極的に取り入れ、分析したり、考察したりする力を高められるよう指導していく。その際に自分の考えを文章にまとめる活動を繰り返し、表現力を高められるようにする。 ・記述式の設問に対しては、普段から自分の考えを筋道を立てて発表したり、書いたりするようにする。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.2	69.5	65.2
	生命・地球	71.6	72.3	70.1
観点別	知識・技能	72.7	74.0	70.7
	思考・判断・表現	69.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	正答率は市の平均正答率と同等である。 ○物のとけ方に関する実験において手順の誤りを指摘し、文章で説明する問題では、市の平均正答率を18.7ポイント上回っている。 ●空気中の気体の体積の割合に関する問題では、市の平均正答率を17.5ポイント下回っている。	・実験を行う前に、準備物や実験の手順に関して教科書で確認するだけではなく、他に必要な物がないか考えたり注意点はどこか話し合ったりするなど、主体的に取り組めるような機会を今後とも作っていく。 ・空気中で一番割合が多いのはどの気体か予想を立ててから実験に臨んだり、地球の歴史の観点から空気の成分について考えたりするなどして児童の理解を深めていく。
生命・地球	正答率は市の平均正答率と同等である。 ○ヒトの体のつくりにおいて、消化管に当たる臓器を答える問題では、市の平均正答率を13.3ポイント上回っている。 ●植物のつくりとはたらきに関する文章を読み取って、正しい図を選ぶ問題では、市の平均正答率を19.5ポイント下回っている。	・実験が行えないような分野に関しても知識が得られるよう、インターネットを活用して調べ学習を行ったり、各々が調べた内容をプレゼンし合うなど、知識が定着する学び合いの仕方を工夫したりしていく。 ・重要語句をただ暗記していくのではなく、実験したことを文章にしたり、正しく文章を読み取って実験を行ったりするなど、日頃の授業から手順や資料を基に取り組む機会を与えていく。

宇都宮市立西原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、授業の目標や身に付けさせた力を考えた一人一台端末の効果的な活用	・児童に学習活動を通してどんな力を付けたのかを焦点化し、その手段の一つとして一人一台端末を使うことで、確かな学力の定着を行う。	・学習内容定着度調査結果から、特に国語の漢字を書く問題の正答率が市よりも6.6ポイント低く、課題が見られた。一方、「文章を書く」問題の正答率は、市の正答率よりも13.2ポイント高い。本校では一人一台端末を積極的に取り入れており、その結果、文章を書くことについてハードルが低くなった様子がうかがえる一方、基礎的な学力がしっかりと身に付いていない可能性も考えられる。今後は、児童にどんな力を付けるのか、学習の目標を焦点化し、効果的な手段の一つとしてICT機器を使うなど、授業を展開するためのより深い教材研究が必要である。
・国語科を中心とした「伝え合う力」を児童が身に付け、課題を自分事とし、主体的に取り組むことで学びの実感を得られるような授業研究、学習の展開や場の設定	・国語科の授業を中心として校内研修を行うとともに、全職員が一人一授業を様々な教科で行うことで、児童が主体的に取り組む、思考力を働かせ、「伝え合う力」を身に付けていくことを通して学びの実感を得られるような授業の展開について、全職員で共通理解を図る。	・学習内容定着度調査結果から、本校は、国語・社会・算数の正答率が市の値を若干上回るに留まった。「伝え合う力」をキーワードとし、様々な教科で授業研究を続けてきたが、課題の趣旨をとらえて話し合ったり、課題を自分事とし、主体的に伝え合ったりすることがまだ十分身に付いていないことがうかがえる。今後も今年度の研修を基に、引き続き校内での研修を続けていき、自主的に学んで行けるような意欲や学ぶことの楽しさを実感できるような授業を工夫していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・正しく文章を読み取る、自分の考えをまとめて話したり書いたりする、友達の意見を自分の考えと比べながら聞くなどの基礎基本を、国語科だけでなく他教科の学習でも意図的に取り入れ、習熟を図る。
- ・朝のモジュール学習などを活用し、個別に対応した既習学習の丁寧な復習指導を行う。
- ・苦手を補い習熟を図るための自主学習の内容を支援・改善する（自主的に学習に向かう力を付ける）。
- ・やる気やあきらめない気持ちを育てるための支援をする（学習ドリル・プリントなど現在の学年以前のものも取り入れ、家庭学習などで活用）。
- ・学習に対して自ら問いをもったり、答えを導くために思考力を働かせる必要のある課題を与えたりすることで、学習を自分事とし、学んだり考えたりすることの楽しさに結び付けたりする。
- ・資料から情報を読み取る力や情報を比較検討する力を身に付けられるように、NIE等メディア活用を意図的に取り入れる。